

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520953

研究課題名(和文)現代祝祭のグローバルな伝播に関する比較研究：国内外のよさこいとエイサーの増殖

研究課題名(英文)Comparative reserches about global diffusions of modern festivals.

研究代表者

内田 忠賢 (UCHIDA, TADAYOSHI)

奈良女子大学・研究院(人文科学系)・教授

研究者番号：00213439

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：全国各地、世界各地に増殖する「よさこい(YOSAKOI)」の文化伝播のプロセスやメカニズムについて調査した。よさこいとは、鳴子踊りの集団によるダンスとその競演イベントを指す。本研究では、文化伝播の比較軸として、国内×海外、よさこい×エイサー(沖縄の太鼓踊り)を設定した。私はこれまで国内のよさこいが作る文化や社会を研究してきた。今回、海外でのよさこいを調査できた。特に、ブラジルでのよさこいを調査でき、日系コミュニティや文化を考えた。また、エイサーは国内外ともに、沖縄文化のローカリティが強く、よさこいに比べ、増殖力が弱い。よさこいは現代の日本文化として汎用性が高く、様々なコミュニティに受容される。

研究成果の概要(英文)：This reserch focuses on the processes and mechanisms about 'YOSAKOI'(Japanese folk dances and these festivals) in Japan and oversea. I set 2 comparative phases in this resarch, in Japan vs oversea, YOSAKOI vs EISA(Okinawan dram-dance). So, especuary, I could reserched YOSAKOI in BLASIL, Japanese comunities and their cultures. EISA has strength okinawan locality. YOSAKOI has strong globability, and 'glocal' characters.

研究分野：人文地理学

キーワード：グローバル グローカル よさこい(YOSAKOI) 文化伝播 日系社会 ブラジル エイサー コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

文化地理学の伝統的なテーマとして、文化伝播があり、その多くは、長い時間を掛けて、文化現象が広がってゆくという前提であった。また、文化人類学や日本民俗学における文化伝播も、たとえば、柳田國男の『蝸牛考』にあるような同心円的な拡散、つまり文化圏が形成されるイメージで捉えられていた。しかし、現代社会での文化伝播は、情報化、交通等の発達により、伝播のスピードが速く、また面的な伝播ではなく、点的な伝播になっている。その代表例として、国内外に増殖しつつける現代祝祭「よさこい」の伝播を想定し、そのメカニズムや背景の解明を目指し、調査研究に臨んだ。

2. 研究の目的

本研究課題のキーワードは、「現代祝祭」、「グローバル」、「比較」である。現代文化の1カテゴリーである現代祝祭「よさこい」の伝播現象を、国内での増殖だけでなく、海外のそれをも視野に入れて調査研究する。したがって、国内と海外という比較軸を設定した。また、もう一つの比較軸として、国内外に増殖している「エイサー」(沖縄の太鼓踊り)に注目し、「よさこい」の文化伝播との違いを考えた。

3. 研究の方法

現代の特定の文化現象をできるだけ総合的に、また深く理解するため、参与観察を基本とした。調査地に出かけ、見学および資料収集するだけでは、文化現象のメカニズムやその背景は十分把握できないと考える。

国内の「よさこい」伝播に関しては、「よさこい」チームのメンバー(踊り子、スタッフなど)として自分自身が参加者となって調査研究した。「よさこい」の発祥地、高知では私が長年関わったこともあり、現在は、「よさこい」祭りの審査委員長として、運営側の内部者としてデータ収集に努めた。

海外、特にブラジルでの「よさこい」伝播の調査研究では、日本から来伯した特別審査員という立場をいただき、内部情報や裏事情を含め、表面的なデータ収集だけではなく、理解を深めることができた。なお、ベトナム・ハノイ市でも、「よさこい」伝播の現場を観察することができた。

比較事例の「エイサー」に関しては、「よさこい」伝播のメカニズムや背景の解明に資するという位置付けだったので、現地での観察およびデータ収集を行った。

4. 研究成果

よさこい祭りは元々、1954年に高知市で地域活性化のため始められた踊りのイベントである。よさこいとは、踊りのジャンルとそれによるイベント(よさこい祭り)を指す。

両手に鳴子と呼ばれる木製の楽器を持ち、民謡をアレンジしたテーマソング「よさこい鳴子踊り」に合わせて踊る集団のパレードから始まる。民謡や日本舞踊をいくつも織り込んだ出自である。この踊りが、1980年代、音楽のごく一部にテーマソングが入れば良い創作の踊りへと進化した。ロック調、サンバ調、衣装も多種多様、アイデア満載の踊りとなった。ただし、この段階では、徳島の阿波踊りを追隨する、日本有数の都市祝祭には、まだ成長していない。

転機は、1992年、札幌市で開催された学生祭典、YOSAKOIソーラン祭りである。高知よさこい祭りを模倣し、手に鳴子、音楽の一部にソーラン節を含む4分半の集団パフォーマンスによるイベントである。地域活性化のための優良イベントとして順調に成長し、これ以降、全国各地でYOSAKOIソーラン祭りを模倣したイベントが大増殖した。各地の民謡やご当地ソング、地域の特色を音楽や振り付け、演出や衣装に生かした。私の推測では2000年代には800ヶ所以上で、同種のイベント、鳴子踊りの競演イベントが開催されている。また、一説には、よさこいを踊る人数は、約200万人に上ると言われる。

参加者数のピークは、札幌4万3千人、名古屋「にっぽんど真ん中まつり」2万人、高知よさこい祭り2万人にも上った。仙台「みちのくYOSAKOI祭り」、埼玉県朝霞市「関八州よさこいフェスタ」、石川県や滋賀県の各地で開催される「YOSAKOIソーラン日本海」、長崎県佐世保市「YOSAKOIさせば祭り」など、民謡などをアレンジしたポップな音楽に合わせ、奇抜な衣装で踊るイベントが全国的に目白押しである。

当初、高知市の商店街など、地域コミュニティの活性化を目指したイベントであったが、集団による創作パフォーマンスと化した80年代には、各チームが町内会や企業体から、同好会、若者たちの緩やかな連帯へと変貌し

てきた。チームごとに毎年、独自の踊りを創作、キラキラした自己表現を行い、個性を競い合うようになった。踊りの進化に伴い、メンバーの新陳代謝が促進され、チームや祭りはさらに活発になった。希薄な人間関係に悩む現代人に新しい人的ネットワークを提供した。都市化する現代社会にマッチした流行現象となった。各チームとも、拠点とする地域だけでなく、各地のよさこい YOSAKOI 系イベントに遠征する。地域間だけでなく人的な交流が盛んとなった。

道路や公園を有効活用した祭りは、バブル崩壊後の地域社会が利用しやすい。しかも、地元の民謡を生かした音楽、地域の特色を盛り込んだ振り付けや衣装は、地方への帰属意識や自負を涵養する。商工会や自治体がよさこい YOSAKOI 系イベントを活用するのも当然の成り行きである。よそ者や変化を拒む従来の祭りの多くが、若者を取り込めないのと対照的な増殖ぶりである。

よさこい YOSAKOI 系イベントが伝播した地域を概観すると、すでに伝統的な地域コミュニティは弱くなり、新しい人的ネットワークが求められていた。つまり、社会の変化が求める新しいコミュニティ、人的ネットワークに、よさこい YOSAKOI 系イベントは対応していたことになる。現在、高知、札幌に限らず、よさこい YOSAKOI 系のチームやイベントは、インターネットを通じた情報交換、交流が盛んである。各自がインターネット上の動画で練習をして、各地の大会の際、メンバーが全国から集まるチームもある。

なお、海外でも、今回ご紹介するブラジルの他、ベトナム、台湾、ハワイなど多くの場所に増殖している。たとえば、ベトナムでは、「よさこい」への主な参加者は「日本大好き」な大学生たちであり、その背景には、ベトナム社会での日本ブームがあった。

さて、以後は、本科研調査の中心となるブラジルでの「よさこい」伝播に関する報告で

ある。

ブラジルには、日系人が約 150 万人いるとされ、民族アイデンティティを再確認する日系イベントが盛んである。日系社会（コロニア）では、民謡、和太鼓、カラオケ、日本舞踊など多様な活動が、活発に行われている。しかし、日系も三世、四世と世代が下がると、日本語を話せないだけでなく、日本文化に類する活動から遠ざかってしまう。そのような状況で、よさこいが導入されることになる。現在、アマゾン川の中流、アマゾネス州マナウス市をはじめ、ブラジル国内で、約 100 チームほどが活動をしていると言われる。

ブラジルに、よさこいが VHS や DVD の動画として伝わったのは 2000 年頃と思われるが、2003 年には、よさこいのチームが集まって第 1 回の YOSAKOI-SORAN ブラジル大会が開催された。主宰者は、ブラジル第 2 位の美容室チェーン SOHO の総帥だった飯島秀昭（1950～）である。彼は 1979 年にブラジルへ移住した一世であるが、自ら埼玉県人会長を務め、「ブラジル掃除に学ぶ会」を組織するなど、率先して、日系人の結びつきや日本に関わる文化活動を熱心に推進した。特に、若い日系人が日系の団体や行事に関心を持つような活動をバックアップしてきた。よさこいを通じて、特に、日本文化の規律、感謝の心、団結力を伝えたいという。

つまり、日系のコミュニティのさらなる活性化が、よさこい大会導入の第一の目的である。2012 年の第 10 回大会（7 月 29 日）には、ジュニアの部 4 チーム、アダルトの部 13 チームが登場、観客を含めた参加者の多さを見れば、一定の成果を収めたと言える。しかも、飯島はブラジルの若者たちに日本を知ってもらおうと、これまで何度もチームを率いて、札幌 YOSAKOI ソーラン祭りにも遠征している。

2012 年まで、日系人が多く住む大都市、サンパウロでの開催だったが、2013、2014 年は、

やはり日系人が多く住み、日系文化が根強く伝わるというパラナ州マリンガ市での開催であった。人口約 36 万人のマリンガ市では、毎年 8 月に大規模な日本文化祭 NipoBrasileiro が行われるが、それに先立つ 7 月末のイベントである。

各地から集まるチーム名には、「改善 Kaizen」「青春 Seishun」「最強 Saikyo」等、日系社会のキーワードが散りばめられる。そして、それらのチームの背景となるコミュニティは地域社会というよりは、日系社会の人的ネットワークである。特に、若者たちや子供たちの連帯、彼らと大人たちの連帯を強める役割を果たしている。年齢層が比較的高い民謡や日本舞踊の大会には見られない、幅広い世代間のネットワークを形作るきっかけになっている。また、大会を通じて、各地の日系社会のネットワークを繋ぐ役割も果たす。

若者たちが主役である点では、インターネットを介した交流も盛んである。ブラジルでは、インターネットを介した YOSAKOI-SORAN の SNS コミュニティがあり、情報交換、友情関係の維持に努めている。

新しい動向としては、第 11 回大会で優勝した Grupo Seishun のリーダーは、非日系人 ジョニー・セルバーノという 22 歳の若者であった。よさこいに魅了された彼が、チームを牽引した。日系人のイベントと思われがちな YOSAKOI-SORAN にも、新しい動きが垣間見える。元々、ハイブリッド（異種混交）な出自であるよさこい、あるいは YOSAKOI ソーランは、日本でも海外でも、新しいコミュニティ、次世代のネットワークを生み出す仕掛けとなっている。

最後に、沖縄の太鼓踊り「エイサー」との比較を短く記す。

「エイサー」は「よさこい」同様、1990 年代以降、日本全国に伝播したが、「よさこい」ほどの増殖力がなかった。それは、「よさこ

い」にはローカル色が非常に弱いのに対し、「エイサー」には、常に沖縄イメージが伴い、また、イベントやチームに沖縄出身者が深く関わっている。ブラジルで調査した際も、「エイサー」の活動は、沖縄出身の日系人コミュニティから離れることはなかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

内田忠賢、査読なし、現代祝祭のグローバルな展開 YOSAKOI-SORAN ブラジル大会、奈良女子大学 地理学・地域環境学研究報告、第 10 号、2015 (刊行予定) 頁未定

内田忠賢、査読なし、地球の反対側の YOSAKOI ソーラン、まほら、84 号、2015、38 - 39 頁

内田忠賢、査読なし、南アメリカのイメージ、社会科教育、2015 年 4 月号、126 頁

内田忠賢、査読なし、よさこいが生み出すコミュニティ、都市問題、第 104 巻 9 号、2013、73 - 79 頁

内田忠賢、査読なし、現代祝祭のグローバルな展開 YOSAKOI-SORAN ブラジル大会、人文地理学会 2013 年大会発表要旨集、第 50 巻、2013、96 - 97 頁

[学会発表](計 6 件)

内田忠賢、コメント(現代社会と地域文化)、経済地理学会関西支部例会、2014 年 12 月 20 日、大阪市立大学。梅田サテライト

内田忠賢、現代民俗のグローバルな伝播に関する比較研究、京都民俗学会第 32 回研究大会、2013 年 12 月 1 日、佛教大学

内田忠賢、現代祝祭のグローバルな展開 YOSAKOI-SORAN ブラジル大会、人文地理学会 2013 年大会、2013 年 11 月 8 日、大阪市立大学

内田忠賢、街の衰え 衰退都市の誘惑、現代風俗研究会 9 月例会、2013 年 9 月 7 日、京都・徳正寺

内田忠賢、地理学と京都民俗の 30 年、京都民俗学会例会、2012 年 7 月 10 日、佛教大学

内田忠賢、都市民俗研究のゆくえ、京都民俗学会例会、2012 年 5 月 29 日、ウイングス京都

[図書](計 9 件)

井上章一(編)、日本文化の事典、丸善出版、2015 刊行予定、総頁未定(執筆「よ

さこいと和太鼓」、頁未定)
福田アジオ 他(編) はじめて学ぶ民俗学、ミネルヴァ書房、2015、総 280 頁(執筆「都市の熱気」、76-83 頁)
民俗学事典編集委員会(編) 民俗学事典、丸善出版、2014、総 811 頁(執筆「よさこい/YOSAKOI、」604-605 頁)
人文地理学会(編) 人文地理学事典、丸善出版、2013、総 761 頁(執筆「民俗の地理」、96 - 97 頁)
現代風俗研究会(編) 内田忠賢(編著) 新宿書房、物見遊山 旅と娯楽の風俗学、2012、総 190 頁
内田忠賢(編著) 岩田書院、都市民俗生活誌文献目録、2012 年、総 224 頁
内田忠賢 他、行人社、土佐の歴史と文化、2011、339 頁(執筆「高知「よさこい祭り」 変化しつづける祭りの原点」、205 - 218 頁)
内田忠賢 他(編著) 岩田書院、都市と都市化(都市民俗 基本論文集 第 2 巻)、2011、総 625 頁
内田忠賢 他(編著)、岩田書院、都市民俗の周辺領域(都市民俗 基本論文集 第 4 巻)、2011、総 582 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)
取得状況(計 0 件)

〔その他〕

新聞記事 Tadayoshi Uchida vai
ministrar workshop, ODIARIO DO
NORTE DO PARANA 紙(ブラジル・パ
ラナ州の日刊紙) 2014 年 7 月 25 日
新聞記事「奈良女子大学 内田教授
YOSAKOI 研究に来伯」ブラジル・ニッ
ケイ新聞、2012 年 8 月 8 日
新聞記事「日系社会ニュース 大耳小耳」
ブラジル・ニッケイ新聞、2012 年 8 月 8
日
テレビ番組(企画、出演)「明日のよさこ
い」、九州朝日放送制作、2011 年 8 月 3
日放映

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内田忠賢(UCHIDA.Tadayoshi)
奈良女子大学・研究院(人文科学系)・教授
研究者番号: 00213439

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし